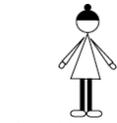




市田柿の産地である高森町では、昔ほどの家の軒先でも柿をつるす「柿すだれ」が見られませんでした。しかし、品質管理の面から、徐々に姿を消していきました。

将来までこの風景を守ろうと、住民が活動を始めます。農家にも協力を仰ぎながら、イベントを開催し、柿すだれの復活に取り組みました。

商工会や行政でも、市田柿を地域ブランドとして活用した町の活性化に乗り出しました。産業としての市田柿と、風景としての柿すだれの両立を目指し、まちづくりが進んでいます。



市田柿風景の会



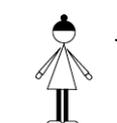
農家



商工会+JA



行政



地元写真家

地域の素晴らしい景観である「柿すだれ」を復活させたいと「市田柿風景の会」を設立した。



柿すだれの風景を残そうと、「市田柿風景の会」立ち上げる

イベント「市田柿の風景に出会える日」(柿すだれ見学まちあるき)の開催  
町民ギャラリーでの市田柿創作展の開催

市田柿ブランド化事業の開始  
旅行会社のツアーの企画・誘致

「市田柿」を地域団体商標に登録  
協議会、委員会を設置し、市田柿を活用した町の活性化方策を検討



- 柿すだれの価値に対する市民の関心が高まった
- 柿すだれツアー開催により、観光客が増加している
- 行政・商工会で、柿すだれを活用した町の活性化の取り組みが始まる

市田柿風景の会

- まちあるきイベント「市田柿の風景に出会える日」の開催
- 町民ギャラリーで市田柿創作展開催

農家

- まちあるきイベント「市田柿の風景に出会える日」に合わせて、軒先に柿すだれをつるす

行政・商工会・JA

- 町の施設での柿すだれの展示
- 柿すだれツアーの企画・誘致
- 写真コンテストの実施
- 「市田柿」の地域団体商標登録
- 行政、商工会、JAが中心となり「市田柿発祥の里活用推進協議会」を発足
- 「市田柿の由来研究委員会」発足

1830~

衛生面を考えて 屋内で作ること

通達

家々の軒先につるされた柿すだれは、以前は初冬になると町中で見られた当たり前の風景でした。

しかし、品質管理の面から、屋外に柿をつるす光景はほとんど見られなくなっています。

昔ながらの柿すだれもう見られないのかな…

いやっ!! 地域の宝として残したい!!

農家のみなさん協力して

柿すだれを復活させたい!!

市田柿の風景の会

1833

このまま「柿すだれ」の風景が失われてしまうのは借しいと、地元の写真家が「市田柿の風景の会」を立ち上げます。

柿すだれを見て歩きましょう

市田柿の風景に出会える日

市田柿創作展

会では、農家の協力を得て、軒先に柿すだれをつるしてもらい見て歩くイベントや町民ギャラリーでの市田柿創作展を開催しました。訪れる人も少しずつ増えていきます。

軒先に柿すだれの風景がほとんど見られなくなっていく中、毎年変わらず鐘楼に自家製の柿すだれをつるしているお寺も見られます。

市田柿をブランド化しよう

町活性化に役立てよう

市田柿写真コンテスト

行政も、柿すだれを観光資源として活用していこうと取り組みを始めます。

来客数の減少に悩んでいた「蘭ミュージアム」では、「柿すだれツアー」を企画します。タイアップしてくれる旅行会社が現れ、企画が実現しました。周辺各地から観光客が訪れるようになり、来客数の増加に繋がっています。

2001

商工会では、産業振興のために地域の特産である「市田柿」のブランド化を目指して動き出します。ブランド化することが産業振興だけでなく、まちづくりの大切な要素になると考えました。

町役場

町役場の入り口には、職員自らが作った柿すだれをつるしています。

2007

「市田柿」地域ブランド認定

軒先を貸してくれませんか

きれいな風景!! ぜひ写真が撮りたい

写真を撮りたいという希望が多く寄せられており、町では農家の軒先を借りて、柿すだれをつるす計画を立てています。

市田柿の由来 研究委員会

市田柿の発祥や名前の由来、歴史を明らかにして、町の活性化へつなげようと提言をまとめました。

市田柿発祥の里 活用推進協議会

市田柿の知名度向上や地域産業の活性化、観光とのタイアップを考える協議会を立ち上げました。

## □ 景観まちづくりの3原則からみた成功のポイント □

## 原則1 《地域性》 歴史・文化・産業・意匠・構法・素材などの地域資源の再発見

## ● 地域の特産品が生み出す古の風景を伝承

- ・ 「市田柿」の発祥の地である高森町では、農家の家々の軒下に吊された干し柿の風景は、晩秋の風物詩といえるものでした。衛生管理の面から干し柿を屋外で乾燥することがなくなっていく中、高森町の人々が取り組んでいるのが、この「柿すだれ」の風景を残し、伝えていこうとする活動です。地域の特産品がつくり出す昔ながらの風景を伝承すべく、様々な取り組みが行われています。

>> 地域の昔ながらの景観を残そうとする取り組みは、地域の文化や風習を伝えていく取り組みでもあります。

## ● 「柿すだれ」の風景を通じた「市田柿」ブランドのPR

- ・ 高森町の農家の人々にとって干し柿は、冬場の農閑期の生計を助ける重要な産業です。「柿すだれ」の風景を残し、その良さを全国に発信しようとする取り組みは、「市田柿」ブランドの知名度の向上にも繋がっていきます。高森町の取り組みは、風景づくりを通じて地域の特産品をPRする活動であるとも言えます。

>> 地域の農業景観や産業景観を守る取り組みは、農業や産業を守り、支援していくことにも繋がります。

## 原則2 《推進体制》 早期からの適切な行政・市民・専門家のコラボレーション

## ● 地元写真家が設立した「市田柿の風景の会」

- ・ 「柿すだれ」の風景を残したい、そう願った地元の写真家（唐木孝治氏）が立ち上げたのが「市田柿の風景の会」です [平成11年（1999）]。農家の方々の協力を得て、軒先に柿すだれを出してもらうイベント「市田柿の風景に出会える日」 [平成12年（2000）から] を開催するなど、「柿すだれ」の風景を守り、伝えていくための活動に取り組んでいます。

>> 同じ思いを持った賛同者を集めることで、活動に広がりが見えてきます。特に、イベント等の開催には、様々な人々の協力が欠かせません。

## ● 行政や住民による「柿すだれ」の展示

- ・ 産業としての干し柿と、ふるさとの風景である「柿すだれ」の両立が模索される中、行政や住民により、「柿すだれ」の演出が行われています。地元の古刹である松源寺では、毎年、鐘楼に「柿すだれ」の展示を行っています。役場の入り口には、職員自らが作った「柿すだれ」が展示されています。また、産直センターの建物の軒下にも「柿すだれ」が吊されています。このような地道な取り組みが、地域の風景を伝え、訪れる人々の目を楽しませています。

>> 景観まちづくりには継続的な取り組みが欠かせません。行政などによる地道な活動が、人々の景観への関心を高めることに繋がります。

### ●市田柿を活かしたまちづくりに向けた協議会、研究委員会の設立

- ・ 行政を中心として、「市田柿」を活かしたまちづくりを進めるための取り組みが進められています。
- ・ 「市田柿」が特許庁によって地域団体商標として登録されたのを契機に、行政や農協、商工会、高森町まちづくり振興公社によって、「市田柿発祥の里活用推進協議会」が設立されました [平成18年 (2006)]。「市田柿」の知名度向上と、地域産業の活性化を目指した活動に取り組んでいます。
- ・ また、行政により設立された「市田柿の由来研究委員会」では、文献調査や、地域の古老や関係者からの聞き取り調査により、「市田柿」の由来や歴史を研究し、その成果を元に、「市田柿を活用したまちづくりへの提言」をまとめ [平成20年 (2008)]、町長に提出しました。

>> 景観まちづくりの取り組みには、多方面からのアプローチが欠かせません。複数の主体が連携することで、様々なアイデアが生まれてきます。行政はもちろん、商工会や農協なども重要な役割を担っています。

### 原則 3 《実現性》 計画の実現のための資金や手法、運営等に対する細やかな配慮

### ●「市田柿の風景に出会える日」等のイベント開催を通じた関心の喚起

- ・ 「市田柿の風景の会」や高森町商工会では、「柿すだれ」の風景を残し、「市田柿」の知名度を向上させようと、様々なイベントに取り組んでいます。
- ・ 「市田柿の風景の会」では、農家の協力を得て、柿すだれを軒先に吊してもらうイベント「市田柿の風景に出会える日」を開催しました [平成12年 (2000) から]。写真愛好家をはじめとして、「柿すだれ」の風景を目当てに訪れる観光客の誘致に成功しました。また、「高森町歴史民族資料館」を舞台に、「市田柿創作展」を開催し、「市田柿」をテーマとした絵画や写真等の募集・展示を行いました [平成12年 (2000) から]。「市田柿」をブランド化しようという取り組みを進めている商工会議所でも、「市田柿」をテーマとした写真コンテストを開催しました [平成15年 (2003)]。

>> 地域の人々が気軽に参加できるイベントを開催することで、身近な景観への関心を高めることに繋がります。また、各地から人々が訪れたり注目されたりすることで、地域の人々が、地元の良さに気づき、見直すきっかけになります。

### ●旅行会社とタイアップした「柿すだれツアー」の実施

- ・ 「高森町まちづくり振興公社」が運営する「蘭ミュージアム」は、来客数の減少に悩んでいました。この状況を打開すべく、役場が企画したのが「柿すだれツアー」でした。「蘭ミュージアム」の正面玄関や庭の特設会場で「柿すだれ」の展示を行い、この「柿すだれ」の見学を組み込んだツアーを旅行会社に売り込みました。これにタイアップする旅行業者が現れたことから「柿すだれツアー」が実現されました [平成18年 (2006) から]。周辺各地から観光客が訪れるようになり、「蘭ミュージアム」の来客数の増加に繋がっています。また、庭の特設会場では、地元の農産物等の販売も行われています。

>> 地域の特徴的な景観は、重要な観光資源にもなります。様々なアイデアでPRしていくことで、地域の活性化にも繋がります。